

「自然との共生」をめざした「環境教育」のあり方 ～身近な環境や自然に対して主体的にかかわる子どもの育成～

I 研究テーマにかかわって

自然環境は全ての生き物の生活基盤であるが、人間はこれまで自然を破壊し、あたかも人間だけが特別な存在であるかのように自然に対して大きな負荷を与え、再生不可能ではないかと思われるような開発を行ってきた。その結果、地球は、大気汚染、海洋汚染、オゾン層の破壊、地球温暖化、酸性雨、水質汚濁、食糧問題、人口問題、エネルギー問題、絶滅が危惧される動植物の数々…。実に様々な環境問題を抱えるようになった。また、福島第一原発による放射能汚染は、終わりの見えない最大の環境問題である。

これら問題を解決するためには、私たちの生活と自然とのかかわりにどのような問題があるのかという実態を正しく把握し、その原因を追求することが大切である。また、環境問題を引き起こしている社会経済の仕組みも理解し、環境に配慮した仕組みに変革していく努力も大切である。私たち一人ひとりが、問題解決のために何をしなくてはならないかを考え、実行していくことが必要とされている。

本部会では、まず、私たちが科学的な知識に裏付けられた環境に対する現状認識を深めるとともに、環境問題を自分の課題としてとらえ、主体的に取り組んでいけるような子どもの育成をめざしていききたい。そのためにも、子どもたちが自然に親しみ、自然の素晴らしさや不思議さに気付くことができるような環境学習の機会を重視して、環境に対する豊かな感受性を育んでいきたい。

II 研究内容

1 研究授業

(1) 第3学年 理科「身近な自然の観察」

授業者 山元 和香子 教諭（八幡小）

- ・理科の学習を中心に、社会科や総合的な学習の時間の校外学習の時間を利用した合科的な学習を通して、児童が自然と触れ合う機会を増やし、身近な自然に興味や関心を持たせる環境教育

(2) 第2学年 生活科「自然の杜の自然観察」…フィールドワーク…（野外授業）

授業者 加藤 友子 教諭（東雲小）

- ・東雲小学校にある「自然の杜」を観察し、樹木にネームプレートを取り付けた。
- ・部会員が図書等を参考に木々の特徴を確認して共有し、学習の場とした。

2 一人一実践

部会員一人一人が日々実践していることなどを報告し、意見交換をする。

3 臨地研修

山梨市堀之内地区（友沢・仏沢奇岩群）での自然観察会

Ⅲ 成果と課題

1 研究授業

8月の統一授業研（八幡小学校 山元 和香子 教諭）の実践では、学校周辺や校庭の身近な自然を教材として、理科を中心に社会科や総合的な学習の時間などと組み合わせた合科的な扱いの学習を行った。本時では、子どもたちにとって最も身近な自然である校庭において、木の幹や葉、実、草花の花弁や種子などの写真をヒントに植物を探し、準備されたクイズに答える「自然観察フォトラリー」という方法を用いて学習を進めた。子どもたちは目当ての植物を探したり、普段何気なく見ている木や草花の様子を改めて注意深く観察したりして新たな発見をしていた。それぞれの教科での取り組みや機会を通して、子どもたちが様々な体験をし、自然の素晴らしさや不思議さを感じ取り、自然を大切にすることを育むことができた。

2月の野外授業では、東雲小学校の「自然の杜」を散策しながら、樹木のネームプレート付けを行った。図書等を参考に、部会員同士が木の特徴を確認しながら設置していった。木の樹皮や蕾、樹形、落葉、堅果などを手掛かりに、およそ20種類の樹木にネームプレートを掛けることができた。今後の子どもたちの学習の一助になったと思う。研究会では、各校の校庭の木々や自然園、ビオトープなどの様子や身近な自然の教材化について学び合うことができた。

どちらの授業も、研究テーマにかかわる体験的な活動をメインとした内容であり、自然の素晴らしさや不思議さを、体験を通して気づくことができ、自然を身近に感じることができた。子どもたちが体験から得た気づきは、大人になっても忘れることはないであろう。この実践を通して、環境問題を考えるための基礎を培うことができたのではないかとと思われる。

2 一人一実践

部会員一人ひとりの得意な分野を生かした実践等が紹介された。コンパニオンプランツの実践、緑のカーテンの実践、蚕の飼育の実践、植物と言葉の力の実践、バイオマス発電の紹介、校外学習の取り組みの紹介、神金小学校と地域の取り組みの紹介、苔玉作りの実習を行った。

それぞれの部員が実践等を持ち寄り、相互に新しい知識や取り組みを教え合ったり深め合ったりでき、とても有意義であった。

3 臨地研修

山梨市景観百選の一つとして挙げられている堀之内地区（友沢・仏沢奇岩群）ので臨地研修を行った。岩石や地層を観察したり山野草などの山中で見られる植物や山道入り口付近で見られる植物の違いとそれぞれの特徴を確認したりした。子どもたちの興味や関心を惹きつけるような、面白く不思議な植物（含む動物）の知識を共有することができた。友沢・仏沢奇岩群についても観察し、自然の不思議さを感じることができた。

（部長 向山 潤）